

(3) 学校等

全ての子どもに対し、身のまわりの環境に目を向けさせることができるのは幼児教育や学校教育であり、学校等での環境学習を通して、子どもたちが社会性を身につけ、人として成長していきます。このように、学校等は未来へのちつなくための環境マインドの基礎を育む重要な場です。

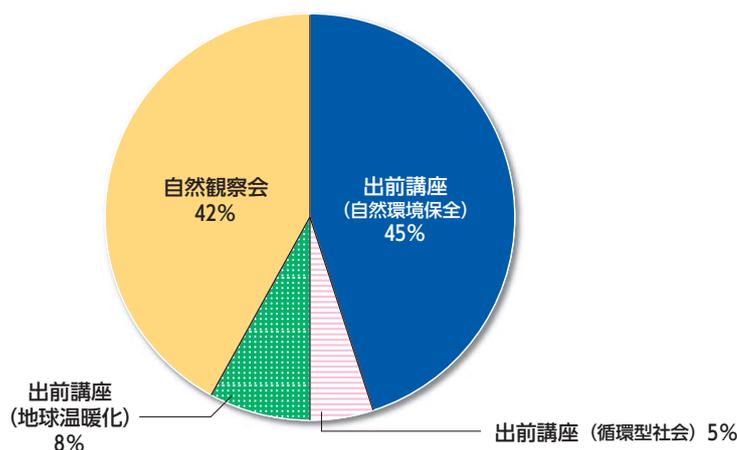
そこで、教職員や保育士等が自ら環境に関する情報収集に努め、環境教育の考え方や手法を学ぶとともに、環境を考慮した学校施設の整備・充実も期待されます。子どもたちは学校での学びを実践し、学校生活をはじめとして、あらゆる場面での環境に配慮したふるまいを身につけることが必要です。また、学校等において自主的な環境保全活動に取り組むとともに家庭や地域に発信して活動を広げ、さらに、地域やPTA、市民団体、事業者などとの共働・連携により環境教育や活動を推進するなどの取組みも大切です。

〈現状・課題〉

●幼稚園・保育園（所）

福岡市が幼児向けに実施している環境教育・学習の実施状況をみると、自然環境保全の分野の出前講座（45%）や自然観察会（42%）が全体の8割強を占め、頻繁に活用されています（図表11）。今後も引き続き、幼稚園や保育園（所）などが活用できる感性を育む体験型プログラムの充実とともに、幼稚園教諭や保育士が環境教育に取り組めるような支援・風土づくりが必要です。また、プログラムとして取り組むだけでなく、日常の園（所）での生活の中に環境の視点を取り入れ、園児たちの身近な自然への興味・関心を高めることなども環境教育・学習につながります。

（図表11）幼稚園・保育園（所）における環境教育・学習の実施状況



【資料：わくわくエコ教室実施状況（H23～H26）】

●小学校・中学校

「環境教育・学習に関するアンケート」（平成26年度）によると、学校における環境教育の実施状況は、小学校は100%、中学校は76.4%の実施率となっており、ほとんどの学校で環境教育が行われています。また、環境教育に割りあてる時間は、小学校は1校あ

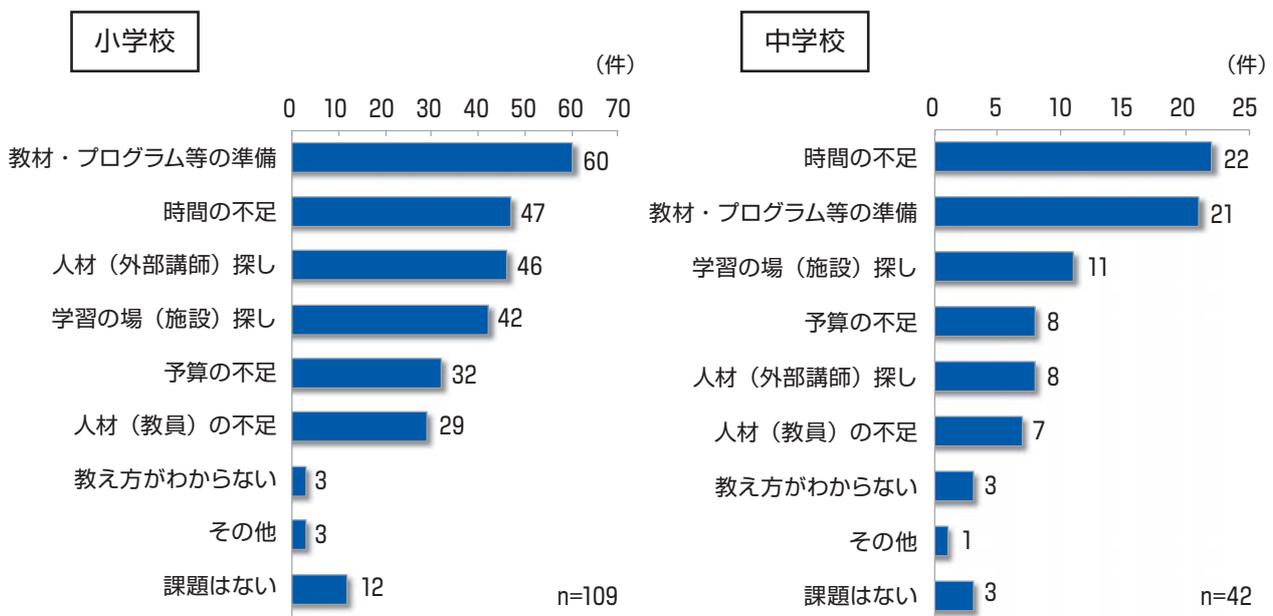
たり約77時数、中学校は1校あたり約14時数となっています。

一方、小学校における環境教育を行う上での課題としては、「教材・プログラム等の準備（60件）」、「時間の不足（47件）」「人材（外部講師）探し（46件）」「学習の場（施設）探し（42件）」が上位の項目となっています（図表12「小学校」）。中学校においては、「時間の不足（22件）」「教材・プログラム等の準備（21件）」が主な課題となっています（図表12「中学校」）。

また、学校等での学びを実践へと結び付けることも必要です。環境保全活動の実施状況について「環境教育・学習に関するアンケート」（平成26年度）によると、小学校は、「省エネ・ごみ減量などの推進（97.2%）」「生き物の飼育（97.2%）」の実施率が9割以上、「花植えや清掃などの校区の美化活動」が85.3%、中学校は、「省エネ・ごみ減量などの推進（89.1%）」「花植えや清掃などの校区の美化活動（81.8%）」の実施率が8割以上となっています（図表13）。今後一層、環境保全活動を推進し、多様な分野での取組みを行うとともに、校内での取組みにとどまらず、地域や他の主体と連携し、社会参加に結びついた活動を展開することが求められます。

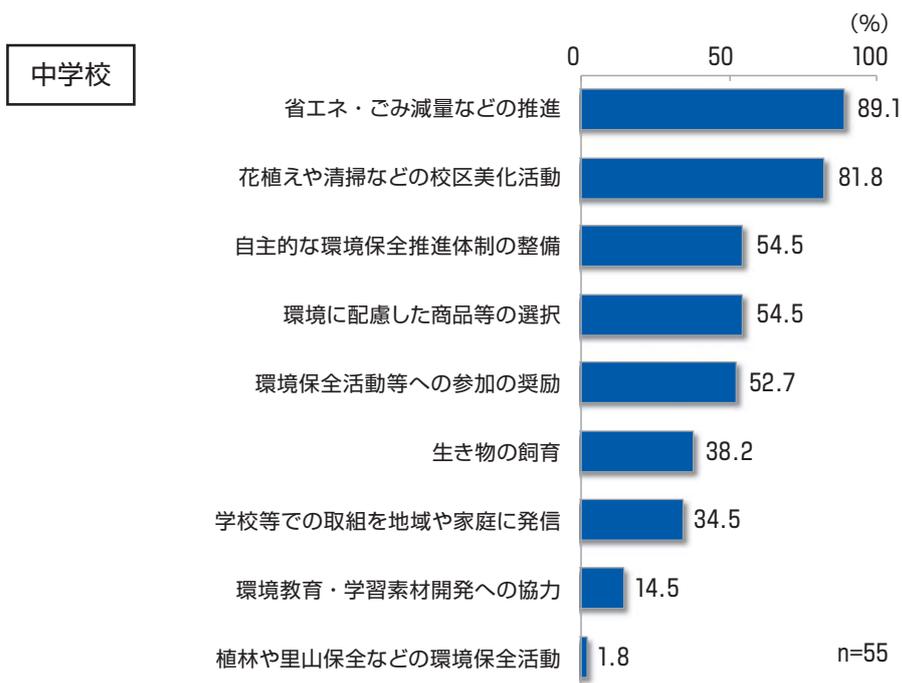
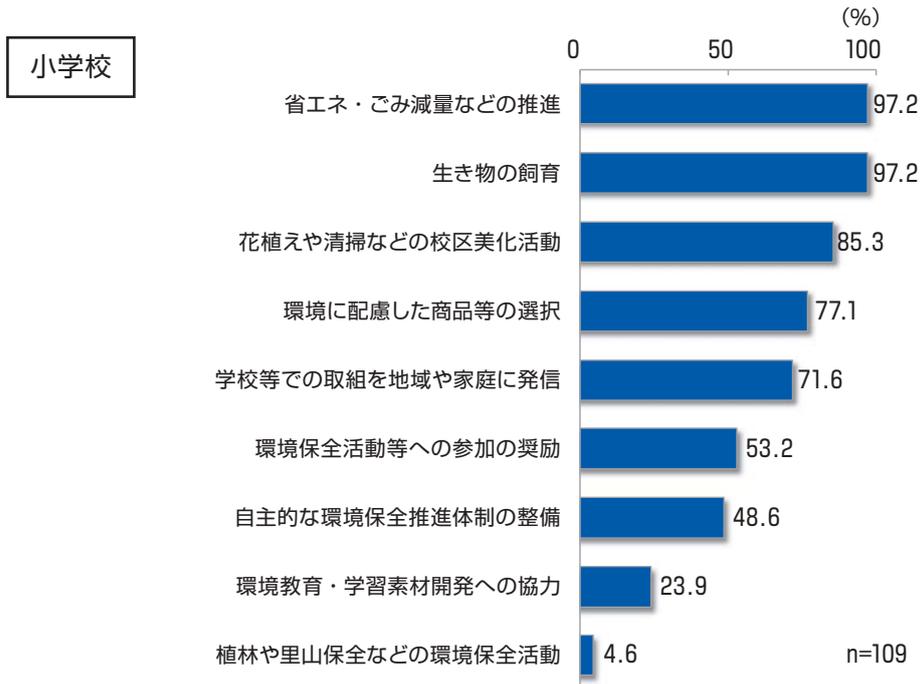
学校教育の現場からは、環境活動に熱心な教員の異動で、その学校での活動が衰退するという声があります。継続的な活動のためには、教職員一人ひとりが環境への関心や想いを高めることはもちろんですが、学校全体の環境への関心・取組みの風土を醸成することが欠かせません。また、教育課程に環境の視点を積極的に取り入れるだけでなく、教育課程外の取組みや日頃の学校生活における取組みの中にも、環境保全や環境美化につながる活動は多くあることから、意識してそうした活動に取り組むことも環境教育・学習の推進になります。

（図表12）小学校・中学校の環境教育における課題（複数回答）



【出典：環境教育・学習に関するアンケート（H26）、福岡市】

(図表13) 環境保全活動の実施状況



【出典：環境教育・学習に関するアンケート（H26）、福岡市】

●高等学校・専門学校・大学等

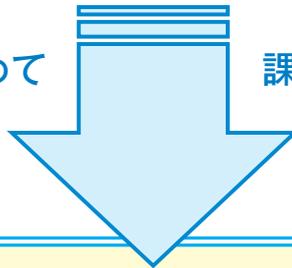
高校生以上になると、教科の中での環境学習はほとんどなくなりますが、課外活動やサークル活動として環境保全活動に取り組む若者もいます。環境活動を行っている高等学校の教員からは、「子どもの頃に受けた環境教育は生徒の中に意識として残っている」

「教員が活動を呼びかけるのではなく、生徒間で声をかけて広がっている」という声があるように、高校生以上の世代には、それまでの学びを自主的な行動に結びつけることが特に期待されます。

環境保全活動に取り組んでいる専門学校や大学の学生の中には、生物学科の学生が中心となった自然観察会、エネルギー科学科の学生が中心となった小水力発電による電気の「地産地消」のモデル作りなど、専門性を活かして取り組んでいる学生もいます。また、活動に取り組んでいる学生からは、「課題を解決するために仲間と試行錯誤しながら取り組むことが楽しい」「目標を持って活動するなかで、新しい出会いがある」「（活動を通して）地域住民と交流できる」といった声がある一方で、「活動を広めることが難しい」「他の団体や大学との交流の機会がほしい」といったことが、課題となっています。

さらに進めて

課題を克服して



10年後の学校等の姿

- 幼少期において、子どもたちが自然や生き物とふれあいながら感性を育てています。
- 多様な教材やプログラム、体験の機会、地域の人材を活用しながら、幼稚園や保育園（所）、小学校において体系的な環境教育・学習が行われ、子どもたちが各々の成長段階に応じて学び、環境マインドを育てています。
- 学校等において環境保全活動が活発に行われており、また地域や他の主体と共働・連携による活動も実施されています。
- 高等学校や専門学校、大学等において、クラブ活動やサークル活動など自主的な環境保全活動が取り込まれ、他の団体との交流や活動の広がりがみられます。
- 高等学校や専門学校、大学等において、専門性や環境への深い理解を持った人材が育成され、環境保全活動に活かされています。
- 教職員や保育士などが環境について体系的に学び、環境教育・学習を意識して教育課程や教育課程外での取組み、普段の学校生活の中に取り入れ、継続的に実践しています。



教育課程で環境教育・学習を取り入れるために、指導者がコーディネーターとなって、計画的に実施できるといいね。

普段の学校生活も、環境の視点で振り返ってみると、環境教育・学習につながる取組みがきっとあるよ！



学校等の取組み紹介



園児による地域の清掃活動

学校法人やなぎ学園 きりん幼稚園

ほぼ毎日、園児たちが地域のごみ拾いを行っています。まちを大切にしたい心と、地域住民とのコミュニケーションの機会にもなっています。

また、園児、保護者、園が一体となって資源回収にも取り組んでいます。園

児たちがきれいに洗ったヤクルトなどの容器は回収業者に渡しています。園の環境委員である保護者がスクールバスに乗り、資源物を回収する活動は50年近く続いています。



園児による地域の清掃活動



海岸での清掃活動

福岡市立 福浜小学校

福浜小学校の6年生は総合的な学習の時間で博多湾の環境問題に取り組んでいます。

漁獲量の変化や魚の生態について調べたり、地元の漁師をゲストティーチャーとして招いてインタビューをするなど、伊崎の海について学びます。また、海での磯遊びやあなごの調理実習を通して、自然の恵みを体感します。

こうして身近な海への「環境観」を育み、海を守るために一人ひとりの生活を見直し、環境活動の実践へとつなげます。9月には伊崎漁港の漁師と一緒に海岸の清掃活動を行う予定です。また、自分たちが体験したことや調べたことについては、まとめを行い地域の方々に発表します。

福岡市立 飯原小学校

「油山川」という身近な自然をテーマに、学年を超えた環境教育を実施し、地域への愛情を育むプログラムに取り組んでいます。2年生は身近な自然である油山川で探検を行い、植物や生きものと触れ合います。3年生は油山川で清掃活動を行い、環境美化の心を育てています。5年生では油山川の自然を調査し、見つけた植物や生きものについて発表を行う予定です。このような活動は、いずれも地元の油山川を守る会と連携しながら実施しており、油山川の自然についてわかりやすく教えてもらうとともに、子どもたちと地域との交流の機会にもなっています。



3年生の油山川の清掃活動

福岡市立 博多中学校

毎年7月15日、博多祇園山笠の追い山の日には有志による自主的な清掃活動を行っています。年末には櫛田神社の清掃に参加するなど、地域と交流しながら博多を愛する心を育てています。

また、約10年前から年1回、中学生や保護者、地域住民も一緒に約200名の規模で清掃活動に取り組んでいます。



博多祇園山笠での清掃活動

その他、各部活動が毎朝当番制で学校周辺の清掃活動を行っており、環境美化への意識や地域への想いを高めています。



大濠公園の「花いっぱい運動」

中村学園三陽高等学校

環境保全活動の一環として、生徒会が学校全体に啓発活動を行い、ボランティア活動を実施しています。大濠公園の「花いっぱい運動」やゴーヤのグリーンカーテン、ペットボトルキャップ・割り箸・紙パックなどの回収を行っており、生徒が公民館に出向いて環境授業も実施しています。また、樋井川の清掃活動やラブアース・クリーンアップにも積極的に参加しています。

はかたわん海援隊(福岡大学)

「福岡市民の宝である博多湾をきれいにする」ことを最終目標に、博多湾に注ぐ河川をきれいにするため、福岡大学付近を流れる樋井川・室見川で積極的に活動を行っています。

月に一度の河川清掃には、高校生や地域住民も参加しています。また、小学校や幼稚園にゲストティーチャーとして赴き、樋井川・室見川に棲んでいる生き物に直接ふれあうことで、川の大切さや楽しさを知ってもらう環境学習も実施しています。「楽しんで活動する。自分が楽しくなければ他の人も楽しくない、興味を持ってくれるはずがない。」をモットーに、活動しています。



環境学習の様子